



Informatica®
10.5.7

マッピング仕様ガイド

Informatica マッピング仕様ガイド

10.5.7

2024 年 11 月

© 著作権 Informatica LLC 2009, 2025

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ（**および本マニュアルに記載されたその他のすべての Informatica が所有する商標**）は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web（<https://www.informatica.com/trademarks.html>）にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2025-02-09

目次

序文	6
Informatica のリソース	6
Informatica Network	6
Informatica ナレッジベース	6
Informatica マニュアル	7
Informatica 製品可用性マトリックス	7
Informatica Velocity	7
Informatica Marketplace	7
Informatica グローバルカスタマサポート	7
第 1 章 : マッピング仕様の概要	8
マッピング仕様の概要	8
マッピング仕様の例	9
設計ワークスペース	9
[カラムのマッピング] パネル	10
[プロパティ] パネル	10
[データプレビュー] パネル	12
[SQL クエリ] パネル	13
[プロファイルのサマリ] パネル	13
マッピング仕様のタイプ	13
マッピング仕様の開発	14
第 2 章 : マッピング仕様の設定	15
マッピング仕様の設定	15
マッピング仕様の作成	16
マッピング仕様の編集	16
ソースカラムとターゲットカラムのマッピング	17
名前または位置によるソースカラムとターゲットカラムのマッピング	17
選択されたカラムへのマッピング	17
カラムの検索	18
カラムのリレーションの削除	18
マッピング仕様の検証	18
マッピング仕様の開発時の検証エラー	19
データプレビュー時の検証エラー	19
ターゲットへのロード操作時の検証エラー	19
SQL クエリ	20
SQL クエリの追加	20
SQL クエリの編集	20

第3章 : マッピング仕様のオブジェクト	21
マッピング仕様オブジェクトの概要	21
マッピング仕様のソース	22
ソースの追加と編集	22
マッピング仕様のターゲット	22
マッピング仕様のターゲットデータ型	23
ターゲットの編集オプション	23
ターゲットの編集	23
マッピング仕様アグリゲータ	24
アグリゲータプロパティ	24
簡易アグリゲータの追加と編集	24
詳細アグリゲータの追加と編集	25
マッピング仕様のルール	26
ルールの適用	26
マッピング仕様のルールの作成	27
ルールのプロパティ	27
再利用可能なルールの編集	28
マッピング仕様のフィルタ	28
簡易フィルタの追加と編集	28
詳細フィルタの追加と編集	29
マッピング仕様のルックアップ	29
ルックアップ条件	30
ルックアッププロパティ	30
ルックアップの追加	31
ルックアップの編集	31
マッピング仕様の結合	32
簡易結合の追加と編集	32
詳細結合の追加と編集	33
第4章 : マッピング仕様のプロファイル	34
マッピング仕様のプロファイルの概要	34
カラムプロファイルの実行	34
プロファイルのサマリ	35
カラムの値	35
カラムパターン	36
カラム統計	36
カラムプロファイル結果の表示	36
第5章 : マッピング仕様のロジックの共有	38
マッピング仕様のロジックの共有の概要	38
Microsoft Excel へのマッピング仕様のエクスポート	39
Microsoft Excel へのマッピング仕様のエクスポート	39

Microsoft Excel 内のマッピング仕様.	39
PowerCenter へのマッピング仕様のエクスポート.	40
PowerCenter リポジトリの接続プロパティ.	41
PowerCenter へのマッピング仕様のエクスポート.	41
マッピング仕様の仮想テーブルとしてのエクスポート.	42
マッピング仕様の仮想テーブルとしてのエクスポート.	43
テーブル定義へのマッピング仕様のエクスポート.	43
テーブル定義へのマッピング仕様のエクスポート.	43
テーブルへのマッピング仕様の結果のロード.	44
フラットファイルへのマッピング仕様の結果のロード.	44
フラットファイルへのマッピング仕様の結果のロードに関するルールとガイドライン.	45
索引.	46

序文

『Informatica®マッピング仕様ガイド』では、Informatica Analyst を使用して、組織内のデータ統合プロジェクトのロジックを定義するマッピング仕様を作成する方法を学びます。マッピング仕様は、ソースからターゲットへのデータの移動およびトランスフォーメーションを記述したものです。マッピング仕様は、データ統合プロジェクトでのコラボレーションに使用できる再利用可能なロジックを含む設計アセットです。

このガイドは、ビジネスロジックを設計し、開発者と協力してデータ統合プロジェクトを促進するビジネスアナリストを対象としています。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、<https://network.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス (PAM) には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> で参照できます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、<http://velocity.informatica.com> からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスしてください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network を介してグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network のオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスして eSupport オプションを選択します。

第 1 章

マッピング仕様の概要

この章では、以下の項目について説明します。

- [マッピング仕様の概要, 8 ページ](#)
- [マッピング仕様の例, 9 ページ](#)
- [設計ワークスペース, 9 ページ](#)
- [マッピング仕様のタイプ, 13 ページ](#)

マッピング仕様の概要

マッピング仕様は、ソースからターゲットへのデータの移動およびトランスフォーメーションを記述したものです。マッピング仕様は、プロジェクトを共同で実施し、ターゲットにデータを取り込むビジネスロジックを定義するのに使用します。そのターゲットを使用して、データに関するレポートを実行できます。

マッピング仕様は設計アセットです。Analyst ツールの **【デザイン】** ワークスペースでマッピング仕様を作成します。

使用するビジネスロジックに基づき、複数のソースや、ソースとして別のマッピング仕様を使用して、マッピング仕様を作成することができ、またはターゲットなしで作成することもできます。マッピング仕様のロジックを他のアナリストや開発者と共有することもできます。

マッピング仕様を作成したら、そのマッピング仕様を表示または編集できます。アグリゲータ、フィルタ、結合、ルックアップ、ルール、ルール定義、およびソースをマッピング仕様に追加して、ビジネスロジックを作成できます。マッピング仕様では、アグリゲータ、フィルタ、結合、ルックアップ、ルール、およびターゲットを編集できます。

マッピング仕様を作成した後に、以下のタスクを実行できます。

- マッピング仕様のソースとターゲットに対してカラムプロファイルを実行し、データの構造と品質を分析します。
- マッピング仕様のソースカラムまたはターゲットカラムに対して SQL クエリを実行し、データプレビューでクエリ結果を表示します。
- マッピング仕様の結果を、リレーショナルターゲットまたはフラットファイルターゲットにロードします。
- マッピング仕様のロジックを、他のアナリストや開発者と記録および共有するために Microsoft Excel にエクスポートします。
- マッピング仕様のロジックを、PowerCenter 開発者と共有するために PowerCenter® にエクスポートします。
- マッピング仕様のロジックを、アナリストと開発者がデータに対して SQL クエリを実行するときに使用できる仮想テーブルとしてエクスポートします。

マッピング仕様の例

アナリストであるあなたは、金融機関の各支店の残高をターゲットテーブルに取り込むためのビジネスロジックを開発します。このビジネスロジックは、PowerCenter にエクスポートして PowerCenter 開発者と共有することができます。このビジネスロジックを仮想テーブルにエクスポートして、仮想テーブルのデータに対して SQL クエリを実行することができます。

以下に示すおおまかな手順に従って、一連の金融商品についてのアクティブな顧客口座の残高データをターゲットテーブルに生成します。

1. Customer_Data という名前のマッピング仕様を作成します。
2. 口座および商品の顧客テーブルを選択してノーマル結合を実行し、金融商品を購入した顧客の口座を表示します。
3. マッピング仕様のターゲットテーブルの構造を、モデルリポジトリ内にある Current_Balance テーブルと同じ構造にする必要があります。そのため、マッピング仕様を作成する際に、Current_Balance テーブルをマッピング仕様のターゲットとして選択します。
4. マッピング仕様にアクティブな口座のデータが表示される必要があります。そのため、マッピング仕様に簡易フィルタを追加して、アクティブでない口座は非表示にし、アクティブな口座だけを表示します。以下のような簡易フィルタの条件を追加します。
`Customer_Accounts.Status = 'Active'`
5. マッピング仕様のデータをプレビューします。データには、当座預金、普通預金、および金融市場商品の各カテゴリに対し、アクティブな顧客口座が含まれています。今回は、普通預金と金融市場商品のカテゴリのデータを表示する必要があります。そのため、開発者と協力してマッピング仕様の詳細フィルタを作成します。マッピング仕様は、Developer ツールでは論理データオブジェクトとして表示されます。開発者は、その論理データオブジェクトをコピーして編集し、顧客口座の普通預金と金融市場商品のカテゴリを表示するフィルタ条件を追加します。開発者は、以下のような詳細フィルタの条件を追加します。
`Customer_Products.Category = 'Savings' OR Customer_Products.Category = 'Money_Market'`
6. 詳細フィルタの条件を含む論理データオブジェクトは、Analyst ツールでは論理データオブジェクトとして表示されます。このオブジェクトをマッピング仕様にソースとして追加します。
7. Current_Balance ターゲットテーブルを編集して、普通預金と金融市場商品のカテゴリの合計残高を計算するルールを追加します。
8. マッピング仕様のデータをプレビューし、マッピング仕様の Current_Balance ターゲットテーブルと同じ構造のターゲットテーブルにマッピング仕様の結果をロードします。
9. マッピング仕様のロジックを PowerCenter にエクスポートすることができます。モデルリポジトリでターゲットを選択して、マッピング仕様のロジックを PowerCenter 開発者と共有することができます。
10. マッピング仕様のロジックを、Administrator ツールで仮想データベース内に表示される仮想テーブルとしてエクスポートすることができます。仮想テーブルのデータには SQL クエリを実行することができます。

設計ワークスペース

Analyst ツールの【**デザイン**】ワークスペースを使用し、アナリストと開発者のコラボレーションを支援するビジネスロジックを設計します。マッピング仕様、参照テーブル、ルール仕様などの設計アセットを作成および管理して、ビジネスロジックを作成します。

【**デザイン**】ワークスペースは、タブを通じてアクセスできる永続ワークスペースです。ワークスペースのタブには、ワークスペース内の複数のパネルにアクセスしたり、ワークスペースのアセットを作成および管理する

のに使用できるホバーメニューがあります。ホバーメニューから **【ライブラリ】** ワークスペースを開くこともできます。

【デザイン】 ワークスペースにある次のパネルにアクセスできます。

デザインホーム

【デザイン】 ワークスペースのデフォルトページです。ワークスペースで使用できる設計アセットについて示し、オンラインヘルプへのリンクを含みます。

新しい資産

【デザイン】 ワークスペースで作成できるアセットを一覧表示します。マッピング仕様、参照テーブルおよびルール仕様を作成できます。

最近開いたファイル

最近開いたアセットを一覧表示します。アセットをクリックし、そのアセットを開いて編集します。

基本操作

【デザイン】 ワークスペースに関するビデオを表示します。

【カラムのマッピング】 パネル

マッピング仕様を選択または作成すると、**【デザイン】** ワークスペースで開きます。マッピング仕様のロジックを **【カラムのマッピング】** パネルで開発できます。

次のマッピング仕様のプロパティが **【カラムのマッピング】** パネルに表示されます。

ソースカラム

ソーステーブル名とカラム名を一覧表示します。

トランスフォーメーション

ターゲットカラムとリレーションのあるソースカラムを一覧表示します。ターゲットカラムとリレーションのあるソース、ルール、アグリゲータ、ルックアップ、および結合カラムを一覧表示します。

トランスフォーメーションの説明

ターゲットテーブル内の行の説明。

ターゲットカラム

ターゲットカラム名。

【プロパティ】 パネル

マッピング仕様のプロパティは、**【プロパティ】** パネルに表示されます。**【プロパティ】** パネルは、**【カラムのマッピング】** パネルの下部のパネルにもパネルとして表示されます。**【プロパティ】** パネルは、**【使用箇所】**、**【ターゲットカラム】**、および **【ルール】** パネルにもマッピング仕様のプロパティを表示します。

次のマッピング仕様のプロパティが **【プロパティ】** パネルに表示されます。

名前

マッピング仕様の名前。

タイプ

オブジェクトのタイプ。マッピング仕様に対しては「マッピング仕様」と表示されます。

説明

マッピング仕様の説明。

場所

マッピング仕様が格納されているプロジェクトまたはフォルダーの場所。

作成日時

マッピング仕様が作成された日付。

作成者

マッピング仕様を作成したユーザーの名前。

ソースカラム

マッピング仕様で使用されているソーステーブル。

ターゲットカラムのコピー元

ターゲットカラムの作成に使用されたデータオブジェクト。

最終変更日

マッピング仕様が最後に変更された日付。

最終変更者

マッピング仕様を最後に変更したユーザーの名前。

ジョブステータス

マッピング仕様の結果をターゲットにロードするロード操作のステータスが表示されます。

ターゲットへの前回のロード

マッピング仕様の結果が最後にターゲットにロードされた日付が表示されます。

前回ロードされたターゲット

マッピング仕様の結果が最後にロードされたターゲットが表示されます。

PowerCenter フォルダー

マッピング仕様のエクスポート先の PowerCenter のフォルダーが表示されます。

ターゲットオブジェクト

マッピング仕様のデータがロードされたターゲットのタイプ。

タグ

マッピング仕様で使用されているタグが一覧表示されます。

仮想データベース

仮想テーブルとしてエクスポートされたマッピング仕様の仮想データベース名。

仮想テーブル

仮想テーブルとしてエクスポートされたマッピング仕様の仮想テーブル名。

JDBC URL

仮想テーブルとしてエクスポートされたマッピング仕様の JDBC URL。

前回のロード

マッピング仕様のロジックが仮想テーブルとして最後にエクスポートされた日付。

次のマッピング仕様のプロパティが【使用箇所】パネルに表示されます。

名前

ソースとして使用されているマッピング仕様の名前が一覧表示されます。マッピング仕様内のオブジェクトが他のプロジェクトで使用されている場所が一覧表示されます。

次のマッピング仕様のプロパティが **【ターゲットカラム】** パネルに表示されます。

ターゲット名

ターゲットカラム名。

データ型

ターゲットカラムのデータ型。

精度

ターゲットカラムの精度。

スケール

ターゲットカラムのスケール。

NULL 可能

リレーショナルデータベースのカラムに NULL 値を含めることができるかどうかを示すプロパティ。

キー

ターゲットのキーカラム。

次のマッピング仕様のプロパティが **【ルール】** パネルに表示されます。

ルール

ルールカラムの名前。入力カラムと出力カラムの名前が表示されます。

列

ルールカラムの名前。

データ型

ルールカラムのデータ型。

精度

ルールカラムの精度。

スケール

ルールカラムのスケール。

[データプレビュー] パネル

【データプレビュー】 パネルには、マッピング仕様の結果、またはマッピング仕様のソースまたはターゲットのデータが表示されます。

【データプレビュー】 パネルが、マッピング仕様の次の場所に表示されます。

- マッピング仕様の **【カラムのマッピング】** パネル。
- **マッピング仕様の編集ウィザード** のマッピング仕様オブジェクトのパネル。
- **新しいマッピング仕様ウィザード** のソースとターゲットの選択。

マッピング仕様の開発時に、マッピング仕様に適用するビジネスロジックの結果をプレビューすることができます。

マッピング仕様の編集時に、追加または編集したマッピング仕様オブジェクトのデータをプレビューできます。このプレビューには、マッピング仕様のターゲットのデータが表示されます。これにより、マッピング仕様の結果をプレビューしてからターゲットに結果をロードすることができます。

マッピング仕様の作成時に、選択したソースおよびターゲットのデータをプレビューできます。トランスフォーメーションオブジェクトを選択してデータプレビューを実行すると、Analyst ツールによって、トランスフ

オーメーションオブジェクトとこのオブジェクトの前に追加されたすべてのトランスフォーメーションオブジェクトのデータプレビューが返されます。

[SQL クエリ] パネル

マッピング仕様の SQL クエリの結果を **[SQL クエリ]** パネルでプレビューできます。

既存の SQL クエリを表示および編集できます。SQL クエリをマッピング仕様に追加できます。**[SQL クエリ]** パネルには、SQL クエリの結果がデータプレビューとして表示されます。

ビューのアイコンをクリックして、マッピング仕様で使用する SQL クエリを表示し、その SQL クエリをエディタで編集して、SQL クエリデータをプレビューできます。

[プロファイルのサマリ] パネル

[プロファイルのサマリ] パネルでは、ソースまたはターゲットのプロファイルのサマリを表示したり、各カラムの値、パターン、および統計を表示したりできます。

[プロファイルのサマリ] パネルは、マッピング仕様のソースまたはターゲットに対してカラムプロファイルを実行するために使用します。

次のツールチップおよびアイコンが **[プロファイルのサマリ]** パネルに表示されます。

プロファイルのサマリ

プロファイルのサマリには、プロファイル結果について、一意の値と NULL 値の個数と割合などが記載されます。

[サンプリングポリシー] アイコン

プロファイルされたオブジェクトの Analyst ツールサンプリングポリシーです。アイコンの上にカーソルを置くと、オブジェクトのサンプリングポリシーが Analyst ツールによって表示されます。

[詳細の表示] アイコン

各プロファイル結果の値、パターン、および統計を表示します。

[更新] アイコン

カラムプロファイルをもう一度実行します。

マッピング仕様のタイプ

開発するビジネスロジックに基づいて、さまざまなタイプのマッピング仕様を作成することができます。

次のタイプのマッピング仕様を作成できます。

ターゲットがないマッピング仕様

マッピング仕様の開発の初期段階では、ソースを 1 つ以上設定して、ターゲットは設定せずにマッピング仕様を作成することができます。このマッピング仕様は有効ではなく、プレビューしたり結果をターゲットにロードしたりすることはできません。ただし、編集してターゲットを設定すれば、このマッピング仕様を有効にすることができます。

複数のソースを含むマッピング仕様

複数のソースと 1 つのターゲットを含むマッピング仕様を作成できます。複数のソースを使用する場合は、ソースの結合条件を指定する必要があります。

別のマッピング仕様をソースとして含むマッピング仕様

別のマッピング仕様をソースとして使用するマッピング仕様を作成することができます。マッピング仕様のインクリメンタル開発の過程では、複雑なフィルタやルールの設定が必要になることがあります。そのような複雑なロジックを分けて開発するために、個別のマッピング仕様を作成することが可能です。それぞれのマッピング仕様をソースとして追加して、ロジックのフローを開発することができます。

マッピング仕様の開発

データをソースからターゲットに変換するビジネスロジックを定義するには、マッピング仕様を開発します。マッピング仕様を開発した後に、マッピング仕様の結果をターゲットにロードしたり、マッピング仕様の結果またはロジックをエクスポートして他のアナリストや開発者と共有したりすることができます。

マッピング仕様を開発するには、以下の手順を実行します。

1. マッピング仕様を作成します。
2. マッピング仕様を設定して、アグリゲータ、フィルタ、結合、ルックアップ、ルール、およびソースを追加したり、アグリゲータ、フィルタ、結合、ルックアップ、ルール、およびターゲットを編集したりします。
3. マッピング仕様を検証します。
4. マッピング仕様の結果をプレビューします。
5. マッピング仕様を開発すると、以下の手順を実行できます。
 - マッピング仕様を開発者と共有します。
 - マッピング仕様の結果をターゲットにロードします。
 - マッピング仕様ロジックをドキュメントとして Excel にエクスポートします。
 - マッピング仕様ロジックを PowerCenter にエクスポートします。
 - マッピング仕様ロジックを仮想テーブルとしてエクスポートします。

第 2 章

マッピング仕様の設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [マッピング仕様の設定, 15 ページ](#)
- [マッピング仕様の作成, 16 ページ](#)
- [マッピング仕様の編集, 16 ページ](#)
- [ソースカラムとターゲットカラムのマッピング, 17 ページ](#)
- [カラムの検索, 18 ページ](#)
- [カラムのリレーションの削除, 18 ページ](#)
- [マッピング仕様の検証, 18 ページ](#)
- [SQL クエリ, 20 ページ](#)

マッピング仕様の設定

マッピング仕様を作成したら、マッピング仕様で使用するオブジェクトを設定できます。

オブジェクトは、マッピング仕様に追加した後にマッピング仕様で編集できます。マッピング仕様には、ソース、ルール、フィルタ、ルックアップ、結合を追加できます。ソースを追加したりマッピング仕様をルックアップする場合は、データオブジェクトを検索できます。また、ルールをマッピング仕様に適用する場合は、再利用可能なルールを検索できます。ルール仕様を再利用可能なルールとしてコンパイルしてから、マッピング仕様に追加できます。

ターゲットを設定せずにマッピング仕様を作成すると、空のターゲットが作成されます。このターゲットを編集してターゲットフィールドを設定することができます。マッピング仕様を検証して、マッピング仕様にエラーがないことを確認できます。

マッピング仕様にオブジェクトを追加すると、Analyst ツールでオブジェクトカラムからターゲットカラムへのリレーションがマッピングされます。カラム間のリレーションは削除することができます。

マッピング仕様のソースカラムまたはターゲットカラムに対して SQL クエリを実行し、データプレビューでクエリ結果を表示することもできます。

マッピング仕様の作成

データを変換してソースからターゲットに移動するビジネスロジックのコンテナとしてマッピング仕様を作成します。**【新規】** メニューまたは **【デザイン】** ワークスペースの **【新しい資産】** パネルから、マッピング仕様を作成できます。

マッピング仕様を作成する前に、使用するソースがプロジェクト内に存在することを確認してください。

1. **【デザイン】** ワークスペースの **【新しい資産】** パネルで、**【マッピング仕様】** をクリックします。
新しいマッピング仕様ウィザードが表示されます。
2. 一意の名前と説明（省略可能）を入力します。
3. マッピング仕様を作成するプロジェクトまたはフォルダーを選択します。
4. **【次へ】** をクリックします。
5. **【ソース】** パネルで、**【追加】** アイコンをクリックします。
ソースオブジェクトの追加ウィザードが表示されます。
6. **【ソースオブジェクト】** パネルで、1つ以上のソースを選択します。
7. 必要に応じて、ソースを選択して **【データプレビュー】** をクリックし、ソースデータをプレビューします。
8. 必要に応じて、ソースを選択して **【プロパティ】** をクリックし、ソースプロパティを表示します。
9. **【OK】** をクリックし、**【次へ】** をクリックします。
10. 複数のソースを選択した場合は、**【新しい結合】** アイコンをクリックして結合を作成し、編集オプションを選択して結合を設定します。
11. **【OK】** をクリックし、**【次へ】** をクリックします。
12. 仮想ターゲットを使用するか、**【ターゲットオブジェクト】** パネルからターゲットを使用するかを選択します。
 - ターゲットデータオブジェクトの構造がわからない場合は、仮想ターゲットを使用します。
 - データオブジェクトの構造がわかっている場合は、**【ターゲットオブジェクト】** パネルからターゲットを使用します。マッピング仕様の結果をテーブルにロードする場合は、このターゲットの構造とターゲットテーブルの構造が一致している必要があります。
13. 必要に応じて、ターゲットを選択して **【データプレビュー】** をクリックし、ターゲットデータをプレビューします。
14. 必要に応じて、ターゲットを選択して **【プロパティ】** をクリックし、ターゲットプロパティを表示します。
15. **【完了】** をクリックします。

マッピング仕様の編集

マッピング仕様のルール、フィルタ、トランスフォーメーションオブジェクト、およびターゲットを設定するには、マッピング仕様を編集します。

1. **【アクション】** メニューで、**【編集】** > **【全般】** をクリックします。
マッピング仕様の編集ウィザードが表示されます。
2. マッピング仕様の名前と、必要に応じて説明を編集します。
3. 必要に応じて、**【ソース】**、**【結合】**、**【ルックアップ】**、**【ルール】**、**【フィルタ】**、**【アグリゲータ】**、または **【ターゲット】** タブをクリックして編集オプションを設定します。

4. **【保存】** をクリックします。

ソースカラムとターゲットカラムのマッピング

Analyst ツールでは、カラム名とカラム位置に基づいて、マッピング仕様のソースカラムとターゲットカラムをマップできます。また、カラム名とカラム位置に対して入力した詳細基準に基づいて、カラムをマップすることもできます。ソースカラムとターゲットカラムをそれぞれ選択してカラムをマップすることもできます。

【自動マップ】 ウィンドウで **【詳細】** モードを使用して、カラムのマッピング基準を入力します。

カラム名でマップすると、Analyst ツールではカラムを名前でマップします。例えば、ACCOUNTS は ACCOUNTS にマップされます。

カラム位置でマップすると、Analyst ツールでは最初または最後のソースカラムが、選択したターゲットカラムにマップされます。例えば、最初のソースカラム ACCOUNTS_PAID はターゲットカラム ACCOUNTS にマップされます。

名前または位置によるソースカラムとターゲットカラムのマッピング

カラム名でソースカラムとターゲットカラムをマップすると、Analyst ツールではソースとターゲットのプレフィックスとサフィックスは無視されます。カラム位置でソースカラムとターゲットカラムをマップすると、Analyst ツールでは最初または最後のソースカラムが、選択したターゲットカラムにマップされます。

1. **【アクション】** メニューで、**【自動マップカラム】** アイコンをクリックします。

自動マップウィザードが表示されます。

2. カラムを簡易モードでマップするか詳細モードでマップするかを選択します。

- カラムを簡易モードでマップするには、**【簡易】** を選択します。
- カラムを詳細モードでマップするには、**【詳細】** を選択して、カラムを名前でマップするかカラム位置でマップするかを選択します。

簡易モードでは、Analyst ツールによって、同じ名前または位置のカラムがマップされます。詳細モードでは、Analyst ツールによって、名前または位置に基づいてカラムがマップされます。

3. 必要に応じて、**【トランスフォーメーションとターゲットカラム】** パネルで、**【更新】** をクリックしてマッピング仕様をマップされたカラムで更新し、**【OK】** をクリックします。
4. **【保存】** をクリックします。

選択されたカラムへのマッピング

マッピング仕様で、ターゲットカラムにマッピングする各ソースカラムを選択できます。

1. **【ソース】** パネルで、ソースカラムを選択します。
2. **【トランスフォーメーションとターゲットカラム】** パネルで、ターゲットカラムを選択します。
3. **【ソース】** パネルと **【トランスフォーメーションとターゲットカラム】** パネルの間にある **【選択されたカラムのマップ】** アイコンをクリックします。

カラムの検索

マッピング仕様のカラムを検索して、編集またはオブジェクトを追加するカラムを特定できます。

- ▶ **【カラムのマッピング】** パネルで、**【検索】** アイコンをクリックしてオブジェクトを検索します。以下の表に、検索できるオブジェクトの種類を示します。

オプション	説明
ソースカラム	【ソース】 パネルで、ソースカラムの名前を入力します。
ターゲットカラム	【トランスフォーメーションとターゲットカラム】 パネルで、ターゲットカラムの名前を入力します。
トランスフォーメーションカラム	【トランスフォーメーションとターゲットカラム】 パネルで、トランスフォーメーションカラムの名前を入力します。
トランスフォーメーションの説明	【トランスフォーメーションとターゲットカラム】 パネルで、トランスフォーメーションオブジェクトの説明を入力します。

カラムのリレーションの削除

マッピング仕様にオブジェクトを追加すると、オブジェクトカラムとターゲットカラムのリレーションがマッピングされます。これらのカラム間のリレーションは削除することができます。

1. **【トランスフォーメーションとターゲットカラム】** パネルで、**【トランスフォーメーション】** パネルからカラムを選択します。
2. **【アクション】** > **【トランスフォーメーションのクリア】** をクリックして、カラムのリレーションを削除します。

マッピング仕様の検証

マッピング仕様を検証して、マッピング仕様にエラーがないことを確認します。マッピング仕様の検証は、マッピング仕様の開発サイクルのさまざまな段階で実行できます。ターゲットにロードするマッピング仕様は有効なものでなければなりません。

マッピング仕様の検証は、開発の以下の段階で行うことができます。

- マッピング仕様の開発サイクル中。
- マッピング仕様の結果をプレビューするとき。
- マッピング仕様の結果をターゲットにロードするとき。
- マッピング仕様のロジックを PowerCenter にエクスポートするとき。
- マッピング仕様のロジックを仮想テーブルとしてエクスポートするとき。

検証エラーが発生した場合は、マッピング仕様が有効ではありません。この場合 Analyst ツールは、マッピング仕様の結果をターゲットにロードできません。また、マッピング仕様のロジックを仮想テーブルとしてエクスポートしたり、PowerCenter にエクスポートすることもできません。

マッピング仕様の開発時の検証エラー

マッピング仕様の開発中に、検証エラーが発生する場合があります。

マッピング仕様の開発サイクルで発生する可能性がある検証エラーは次のとおりです。

- マッピング仕様にターゲットがない。
- マッピング仕様に含まれている式、ルール、アグリゲータ、フィルタ、ルックアップ、または結合が有効でない。
- マッピング仕様に含まれているソースがモデルリポジトリで削除または変更されている。
- マッピング仕様に含まれているソースカラムとターゲットカラムのデータ型に互換性がなく、それらのリレーションが有効でない。

データプレビュー時の検証エラー

マッピング仕様の結果をプレビューするときに、検証エラーが発生する場合があります。

マッピング仕様の結果をプレビューするときに発生する可能性がある検証エラーは次のとおりです。

- マッピング仕様に含まれている式、ルール、アグリゲータ、フィルタ、ルックアップ、または結合が有効でない。
- マッピング仕様に含まれているソースカラムとターゲットカラムのリレーションが有効でない。

ターゲットへのロード操作時の検証エラー

マッピング仕様の結果をターゲットにロードするときに、検証エラーが発生する場合があります。

マッピング仕様の結果をターゲットにロードするときに発生する可能性がある検証エラーは次のとおりです。

- マッピング仕様に含まれている式、ルール、アグリゲータ、フィルタ、ルックアップ、または結合が有効でない。
- マッピング仕様に含まれているソースカラムとターゲットカラムのデータ型に互換性がなく、それらのリレーションが有効でない。
- マッピング仕様のターゲットの構造およびプロパティが、ターゲットデータオブジェクトの構造およびプロパティと一致しない。
- ターゲットデータオブジェクトがモデルリポジトリ内に存在しない。
- ターゲットデータオブジェクトのデータベース接続に設定されているプロパティが正しくない。
- ターゲットデータオブジェクトのデータベース接続が削除されている。
- ターゲットデータオブジェクトのデータベース接続を使用する権限がない。
- Analyst Service 用の Data Integration Service が無効になっているか、ロード操作中に無効になった。
- Model Repository Service が無効になっているか、ロード操作中に無効になった。
- Data Integration Service のマッピングサービスモジュールを使用できない。
- マッピング仕様のソースデータオブジェクトとマッピング仕様の結果をロードするターゲットデータオブジェクトが同じである。
- マッピング仕様に含まれている Developer ツールのソースが有効でない。

SQL クエリ

マッピング仕様のソースカラムまたはターゲットカラムに対して SQL クエリを実行し、データプレビューでクエリ結果を表示します。

ソースに大量のカラムが含まれている場合は、選択したソースカラムに対して SQL クエリを実行し、クエリ結果をソースデータのサブセットとして表示することができます。ターゲットカラムに対して SQL クエリを実行し、マッピング仕様を仮想テーブルとしてエクスポートする前にマッピング仕様のロジックを検証することもできます。

Analyst ツールでは、マッピング仕様ターゲットからすべてのカラムを選択する次のクエリがデフォルトで追加されます。

```
SELECT * from [MAPPING SPECIFICATION NAME]
```

SQL クエリの追加

マッピング仕様のソースデータまたはターゲットデータに対してクエリを実行するには、SQL クエリを追加します。

1. [アクション] メニューで **[SQL クエリ]** をクリックします。
[SQL クエリ] ウィザードが表示されます。
2. **[カラム]** パネルで、ソースカラムまたはターゲットカラムを選択し、矢印アイコンをクリックして **[SQL クエリ]** エディタに追加します。
3. 必要に応じて、**[SQL クエリ]** エディタに SQL クエリを入力してクエリを修正します。
4. 必要に応じて、**[検証]** アイコンをクリックして SQL クエリを検証します。
5. **[SQL クエリを実行します]** をクリックして SQL クエリを実行します。

SQL クエリの編集

クエリ文を変更したり、別のソースカラムまたはターゲットカラムに対してクエリを実行したりするには、SQL クエリを編集します。

1. **[SQL クエリ]** パネルで、**[編集]** アイコンをクリックします。
SQL クエリ ウィザードが表示されます。
2. SQL クエリエディタで SQL クエリを変更します。
3. **[SQL クエリを実行します]** をクリックして SQL クエリを実行し、保存します。

第 3 章

マッピング仕様のオブジェクト

この章では、以下の項目について説明します。

- [マッピング仕様オブジェクトの概要, 21 ページ](#)
- [マッピング仕様のソース, 22 ページ](#)
- [マッピング仕様のターゲット, 22 ページ](#)
- [マッピング仕様アグリゲータ, 24 ページ](#)
- [マッピング仕様のルール, 26 ページ](#)
- [マッピング仕様のフィルタ, 28 ページ](#)
- [マッピング仕様のルックアップ, 29 ページ](#)
- [マッピング仕様の結合, 32 ページ](#)

マッピング仕様オブジェクトの概要

データトランスフォーメーション操作を実行するには、マッピング仕様にオブジェクトを追加します。オブジェクトを追加および変更するには、マッピング仕様を編集する必要があります。

マッピング仕様オブジェクトの追加や編集は、**[カラムのマッピング]** パネルで行います。マッピング仕様には、ソース、ターゲットカラム、フィルタ、ルール、およびアグリゲータ、ルックアップ、結合などのトランスフォーメーションオブジェクトを追加できます。

マッピング仕様には、以下のオブジェクトを追加することができます。

- アグリゲータ
- フィルタ
- 結合
- ルックアップ
- ルール
- ソース
- ターゲットカラム

マッピング仕様のソース

マッピング仕様を作成するときは、ソースを1つ以上追加する必要があります。マッピング仕様に複数のソースを追加する場合は、ソース間の結合を指定する必要があります。

テーブル、フラットファイル、論理データオブジェクト、ソーシャルメディアオブジェクト、およびマッピング仕様をソースとして使用できます。

外部ソースが変更された場合、マッピング仕様内の対応するソースオブジェクトに変更を同期させることができます。変更を同期すると、データオブジェクトの変更と一致するようにマッピング仕様が更新されます。更新されたソースを表示するには、マッピング仕様を再度開く必要があります。

マッピング仕様内でソースカラムを検索することができます。ソースカラムは、ターゲット、ルール、フィルタ、または結合に追加できます。また、命名規則とカラムの位置に基づいて、ソースカラムをターゲットカラムに自動的にマップすることもできます。複数のソースカラムをターゲットにドラッグして、既存のターゲットカラム間に挿入できます。

マッピング仕様からソースを削除することができます。他のオブジェクトで参照されているソースを削除すると、参照先オブジェクトの一覧が表示されます。参照先オブジェクトが含まれるソースを削除した場合は、マッピング仕様が無効になります。

ソースの追加と編集

ソースを追加または編集するには、**[マッピング仕様の編集]** ウィンドウを使用します。複数のソースをマッピング仕様に追加できます。マッピング仕様で追加のデータオブジェクトを使用するには、ソースを追加します。マッピング仕様からソースを削除することもできます。

1. **[アクション]** メニューで、**[編集]** > **[ソース]** をクリックします。

マッピング仕様の編集ウィザードが表示されます。

2. **[ソース]** タブで、**[追加]** アイコンをクリックします。

ソースオブジェクトの追加ウィザードが表示されます。

3. **[ソースオブジェクト]** パネルで、各チェックボックスをクリックしてソースを選択、またはプロジェクトからソースを選択します。

4. 必要に応じて、検索ボックスに入力した名前またはタグでソースを検索します。

5. 必要に応じて、ソースを選択して **[データプレビュー]** をクリックし、ソースをプレビューします。

6. 必要に応じて、ソースを選択して **[プロパティ]** をクリックし、ソースプロパティを表示します。

7. **[OK]** をクリックします。

8. 必要に応じて、ソースを選択し、**[削除]** アイコンをクリックしてマッピング仕様から削除し、**[OK]** をクリックします。

9. **[保存]** をクリックします。

マッピング仕様のターゲット

ターゲットデータオブジェクトの構造を定義するには、マッピング仕様のターゲットを使用します。

マッピング仕様のターゲットを使用する場合は、ターゲットデータオブジェクトの構造を確認しておく必要があります。ターゲットの構造がわからない場合は、仮想ターゲットを選択できます。マッピング仕様に空のターゲットが作成されます。このマッピング仕様を編集してターゲットを設定することができます。

マッピング仕様が完成したら、マッピング仕様のターゲットの構造に一致するターゲットデータオブジェクトにマッピング仕様の結果をロードすることができます。

注: マッピング仕様のターゲットカラムの構造とターゲットテーブルデータオブジェクトのカラムの構造が一致している必要があります。

マッピング仕様のターゲットデータ型

ターゲットにサポートされないデータ型が含まれている場合は、マッピング仕様の結果をターゲットにロードすることも、マッピング仕様のロジックを PowerCenter にエクスポートすることもできません。

次のデータ型は、マッピング仕様のターゲットと互換性があります。

- Integer
- Bigint
- String
- Text
- Binary
- Decimal
- Double
- Datetime

ターゲットの編集オプション

マッピング仕様のターゲットを編集する場合は、編集オプションを選択して編集できます。

【トランスフォーメーションとターゲットカラム】 パネルからターゲットを編集でき、ターゲットの編集オプションを選択して編集作業を行うことができます。 **【マッピング仕様の編集】** ウィンドウの **【ターゲット】** タブでターゲットの編集オプションを選択できます。 また、 **【ソース】** パネルから複数のソースカラムをドラッグし、 **【トランスフォーメーションとターゲットカラム】** パネルのターゲットに追加することもできます。

カラムを追加したり、編集するカラムを選択したりできます。1つ以上のターゲットカラムを選択するか、カラムを上下に移動するか、またはカラムを削除します。

ターゲットを編集したら、 **【データプレビュー】** タブでデータをプレビューし、 **【プロパティ】** タブでターゲットプロパティを表示することができます。

ターゲットの編集

マッピング仕様のターゲットを編集して、ターゲットカラムを追加したりターゲットカラムのプロパティを変更したりできます。

1. **【アクション】** メニューで、 **【編集】** > **【ターゲット】** をクリックします。
マッピング仕様の編集ウィザードが表示されます。
2. ターゲットの編集オプションを選択して編集作業を行います。
3. 必要に応じて、 **【データプレビュー】** パネルの **【更新】** をクリックし、ターゲットデータをプレビューします。

マッピング仕様アグリゲータ

アグリゲータをマッピング仕様に追加して、複数行のデータに対して集計計算を実行します。複数の Aggregate 関数をアグリゲータに追加できます。

アグリゲータを追加するときは、カラムのグループまたはすべてのカラムに対して集計計算を実行できます。カラム別にグループ化するときは、複数のカラムに集計計算とルールを適用できます。アグリゲータには、フィルタ、ルール、条件句、およびネストされた式を含めることができます。異なるアグリゲータを複数のカラムに追加することもできます。

アグリゲータは追加、編集、または削除できます。アグリゲータ内のデータをプレビューすることもできます。

以下のタイプのアグリゲータを追加できます。

簡易アグリゲータ

複数のカラムに条件とルールを適用することによって、データを集計します。簡易アグリゲータ内の条件に、ルックアップ、ルール、およびソースカラムを追加できます。

詳細アグリゲータ

複数のカラムに Aggregate 関数と式を適用することによって、データを集計します。詳細アグリゲータ内の条件の式に、ルックアップ、ルール、およびソースカラムを追加できます。

アグリゲータプロパティ

アグリゲータを追加または編集するときは、アグリゲータプロパティを設定します。

以下のアグリゲータのプロパティを設定できます。

関数

アグリゲータ関数の次のプロパティを設定します。

- 関数。Aggregate 関数のタイプです。
- 集計ソース名。Aggregate 関数を適用するカラムのソース、ルックアップ、またはルール名です。
- 集計カラム名。Aggregate 関数を適用するソース、ルックアップ、またはルールカラム名です。
- ターゲットカラム名。Aggregate 関数の結果を返すマッピング仕様ターゲット内のカラム名です。

条件

アグリゲータ条件を使用してアグリゲータ内の行数を減らします。アグリゲータ条件のソース、ルックアップ、ルールカラム、演算子、および値を設定します。

関数と条件

関数と条件に対して次のプロパティを設定します。

- 式。Aggregate 関数および条件が含まれるアグリゲータ内の式です。
- ターゲットカラム名。アグリゲータの結果を含むターゲットカラムの名前です。

簡易アグリゲータの追加と編集

簡易アグリゲータを追加して条件とルールを適用し、カラムのデータを集計します。簡易アグリゲータを編集して、条件、ルール、およびグループ別カラムを変更します。

1. [アクション] メニューで、[編集] > [アグリゲータ] をクリックします。

マッピング仕様の編集ウィザードが表示されます。

2. アグリゲータの追加、または編集を選択します。
 - アグリゲータを追加するには、**【新規】** アイコンをクリックします。
 - アグリゲータを編集するには、**【編集】** アイコンをクリックします。
3. 簡易アグリゲータを追加または編集するには、**【簡易】** をクリックします。
4. **【関数】** パネルで、**【ルール追加】** アイコンをクリックして、**【関数】**、**【集計ソース名】**、**【集計カラム名】**、および **【ターゲットカラム名】** の各カラムを選択します。
5. **【条件】** パネルでカラムと演算子を選択し、値を入力して条件を作成します。
6. **【次へ】** をクリックします。
7. 必要に応じて、**【カラム】** パネルで、グループ化するカラムを選択して、カラムのグループに対して集計計算を実行します。
 複数のカラムを選択するには、Shift または Ctrl キーを押しながら各カラムをクリックします。
8. 矢印アイコンをクリックして、カラムを **【グループ別】** パネルに追加します。
9. 必要に応じて、**【データプレビュー】** パネルで **【表示】** をクリックし、グループ化カラムの一致する値でグループ化されたデータをプレビューします。
10. **【完了】** をクリックし、**【保存】** をクリックします。

詳細アグリゲータの追加と編集

詳細アグリゲータを追加して条件と式を適用し、カラムのデータを集計します。詳細アグリゲータを編集して、条件、式、およびグループ別カラムを変更します。

1. **【アクション】** メニューで、**【編集】** > **【アグリゲータ】** をクリックします。
マッピング仕様の編集ウィザードが表示されます。
2. アグリゲータの追加、または編集を選択します。
 - アグリゲータを追加するには、**【新規】** アイコンをクリックします。
 - アグリゲータを編集するには、**【編集】** アイコンをクリックします。
3. 詳細エディタを追加または編集するには、**【詳細】** をクリックします。
4. **【関数と条件】** パネルで、**【条件の追加】** アイコンをクリックします。
5. ターゲットカラム名を選択します。
6. **【関数】** タブで、関数を選択し、矢印アイコンをクリックしてカラムを選択して、式エディタに関数を追加します。
7. 必要に応じて、**【ルール】** タブで、カラムとデータ型を選択し、矢印アイコンをクリックして式エディタにルールカラムを追加します。
8. 必要に応じて、**【ルックアップ】** タブで、カラムとデータ型を選択し、矢印アイコンをクリックして式エディタにルックアップカラムを追加します。
9. **【OK】** をクリックし、**【次へ】** をクリックします。
10. 必要に応じて、**【カラム】** パネルで、グループ化するカラムを選択して、カラムのグループに対して集計計算を実行します。
 複数のカラムを選択するには、Shift または Ctrl キーを押しながら各カラムをクリックします。
11. 矢印アイコンをクリックして、カラムを **【グループ別】** パネルに追加します。
12. 必要に応じて、**【データプレビュー】** パネルで **【表示】** をクリックし、グループ化カラムの一致する値でグループ化されたデータをプレビューします。
13. **【完了】** をクリックし、**【保存】** をクリックします。

マッピング仕様のルール

マッピング仕様のターゲットカラムのビジネスロジックを定義するルールを作成します。ルールを作成した後、そのルールに式の関数を追加できます。マッピング仕様にルールを適用して、ターゲットカラムに既存のルールロジックを追加します。

マッピング仕様のルールを新規に作成するか、マッピング仕様に既存のルールを適用することができます。マッピング仕様のルールを作成した後は、そのルールを再利用可能にすることができます。ルールの結果はプレビューすることができます。

ルール仕様をマッピング仕様の再利用可能なルールとして適用できます。ルール仕様はユーザーが定義するルール生成用ロジックです。ルール仕様をコンパイルすると、Analyst ツールはそれを再利用可能なルールに変換します。この再利用可能なルールをマッピング仕様に適用できます。

マッピング仕様にルールを適用すると、ルール内のカラムとターゲット内のカラムのリレーションがマッピングされます。ルールカラムからターゲットカラムへのリレーションは削除することができます。ただし、この場合、ルールカラムはマッピング仕様から削除されません。マッピング仕様からルールを削除することができます。この場合は、ルールカラムからターゲットカラムへのリレーションが削除され、さらにマッピング仕様からルールカラムが削除されます。

ルールの適用

マッピング仕様のターゲットカラムに再利用可能なルールを適用して、カラムにルールロジックを適用します。ルールはモデルリポジトリ内に存在する必要があります。

1. [アクション] メニューで、**[編集]** > **[ルール]** をクリックします。
マッピング仕様の編集ウィザードが表示されます。
2. **[新規]** アイコンを選択します。
新しいルールウィザードが表示されます。
3. **[ルールの適用]** を選択します。
4. **[次へ]** をクリックします。
5. **[ルール]** パネルで、プロジェクトまたはフォルダーから再利用可能なルールを選択します。
[入力] パネルおよび **[出力]** パネルに、ルールの入力カラムと出力カラムのプロパティが表示されます。
6. **[次へ]** をクリックします。
7. ルールカラム名を入力します。
8. 必要に応じて、説明を入力します。
9. **[入力]** パネルで、ルールの入力カラムを選択します。
10. **[出力]** パネルで、マッピング仕様のターゲットカラムを選択します。
11. **[完了]** をクリックします。
12. 表示されるメッセージ内の **[はい]** をクリックしてトランスフォーメーションオブジェクトを置換してから、**[保存]** をクリックします。

マッピング仕様のルール作成

マッピング仕様のターゲットカラムのルールを作成して、カラムのビジネスロジックを開発できます。ルールを作成する際には、ルールの編集オプションを設定します。ルールは再利用可能にすることもできます。

1. [アクション] メニューで、[編集] > [ルール] をクリックします。
マッピング仕様の編集ウィザードが表示されます。
2. [新規] アイコンを選択します。
新しいルールウィザードが表示されます。
3. [ルールの作成] を選択します。
4. [次へ] をクリックします。
5. 名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
6. ルールを適用するターゲットカラム名を選択します。
7. ルールを再利用可能にするには、[ルールの保存] を選択し、プロジェクトを選択してルールを保存します。
8. [関数] タブで、関数を選択し、矢印アイコンをクリックしてカラムを選択して、式エディタに関数を追加します。
9. 必要に応じて、[カラム] タブで、ターゲットカラムを選択し、矢印アイコンをクリックして式エディタに追加します。
10. 必要に応じて、[ルール] タブで、カラムとデータ型を選択し、矢印アイコンをクリックして式エディタにルールカラムを追加します。
11. 必要に応じて、[ルックアップ] タブで、カラムとデータ型を選択し、矢印アイコンをクリックして式エディタにルックアップカラムを追加します。
12. [完了] をクリックします。
13. [はい] をクリックして、トランスフォーメーションオブジェクトを置換し、[保存] をクリックします。

ルールのプロパティ

[ライブラリ] ワークスペースから再利用可能なルールを開き、[デザイン] ワークスペースで再利用可能なルールのプロパティを表示します。各パネルで再利用可能なルールのプロパティを編集できます。

次の再利用可能なルールのプロパティが [プロパティ] パネルに表示されます。

名前

ルールの名前。

タイプ

アセットのタイプ。

説明

ルールの説明。

場所

プロジェクトまたはフォルダー内のルールの場所。

次の再利用可能なルールのプロパティが [入力] パネルおよび [出力] パネルに表示されます。

名前

入力カラムまたは出力カラムの名前

データ型

入力カラムまたは出力カラムのデータ型。

説明

入力カラムまたは出力カラムの説明。

精度

入力カラムまたは出力カラムの精度。

スケール

入力カラムまたは出力カラムのスケール。

次の再利用可能なルールのプロパティが **【式】** パネルに表示されます。

構文

ルールの式の構文。

再利用可能なルールの編集

再利用可能なルールを編集して、ルールのプロパティ、入力カラム、出力カラム、またはルール式を変更します。

1. **【ライブラリ】** ワークスペースで、再利用可能なルールを開きます。
再利用可能なルールが **【デザイン】** ワークスペースで開きます。
2. **【プロパティ】**、**【入力】**、**【出力】**、および **【式】** パネルで、**【編集】** をクリックします。
ルールの編集ウィザードが表示されます。
3. 必要に応じて、**【全般】** タブをクリックし、ルールの全般プロパティを変更します。
4. 必要に応じて、**【ポート】** タブをクリックし、入力および出力カラムのプロパティを変更します。
5. 必要に応じて、**【式】** タブをクリックし、ルール式を変更します。
6. **【保存】** をクリックします。

マッピング仕様のフィルタ

マッピング仕様の結果に表示されるデータを制限するには、マッピング仕様にフィルタを追加します。フィルタを追加する際には、フィルタで使用するフィルタ条件を指定できます。

以下のタイプのフィルタを追加できます。

- 簡易フィルタ: ソースカラムに複数の値と演算子を適用します。
- 詳細フィルタ: ソースカラムに式、関数、およびルールを適用します。

簡易フィルタの追加と編集

カラムの固定値でデータをフィルタリングする場合は、簡易フィルタを追加します。簡易フィルタを追加した後で、そのフィルタを編集してフィルタ値やターゲットカラムを変更できます。

1. **【アクション】** メニューで、**【編集】** > **【フィルタ】** をクリックします。
マッピング仕様の編集ウィザードが表示されます。

2. フィルタの追加または編集を選択します。
 - フィルタを追加するには、**【新規】** アイコンをクリックします。
 - フィルタを編集するには、**【編集】** アイコンをクリックします。**【新規フィルタ】** または **【フィルタの編集】** ウィザードが表示されます。
3. **【簡易】** フィルタを選択します。
4. **【条件】** パネルでカラムと演算子を選択して、値を入力します。
5. 必要に応じて、**【データプレビュー】** パネルで、**【更新】** アイコンをクリックしてデータをプレビューします。
6. **【OK】** をクリックします。
【フィルタのプロパティ】 パネルにフィルタ条件が表示されます。
7. 必要に応じて、**【編集】** アイコンまたは **【削除】** アイコンをクリックして、フィルタを編集または削除します。
8. **【保存】** をクリックします。

詳細フィルタの追加と編集

カラムの複数の値でデータをフィルタリングする場合は、詳細フィルタを追加します。詳細フィルタを追加した後で、そのフィルタを編集してフィルタ値やターゲットカラムを変更できます。

1. **【アクション】** メニューで、**【編集】** > **【フィルタ】** の順にクリックします。
【マッピング仕様の編集】 ウィザードが表示されます。
2. **【詳細フィルタ】** を選択します。
3. **【関数】** タブで、関数を選択し、矢印アイコンをクリックしてカラムを選択し、**【OK】** をクリックして**式エディタ**に関数を追加します。
4. 必要に応じて、**【カラム】** タブで、カラムを選択し、追加アイコンをクリックして**式エディタ**にカラムを追加します。
5. 次のいずれかのオプションを選択して、フィルタタスクを実行します。
 - 必要に応じて、**【ルール】** タブで、ルールを選択し、追加アイコンをクリックして**式エディタ**にルールカラムを追加します。
 - 必要に応じて、**【ルックアップ】** タブで、ルックアップを選択し、追加アイコンをクリックして**式エディタ**にルックアップカラムを追加します。
 - 必要に応じて、**式エディタ**で式を入力します。
 - 必要に応じて、**【検証】** をクリックして式を検証します。
 - 必要に応じて、**【更新】** をクリックしてデータをプレビューします。
6. **【OK】** をクリックし、**【保存】** をクリックします。

マッピング仕様のルックアップ

データオブジェクト内のデータをルックアップするには、マッピング仕様のルックアップを使用します。Analyst ツールは、ルックアップの入力および条件に基づいて、ルックアップソースを照会します。

1つのマッピング仕様内で複数のルックアップを使用できます。ルックアップを追加した後に、そのルックアップを編集できます。

次のソースでルックアップを実行できます。

- フラットファイル
- リレーショナルテーブル
- 論理データオブジェクト
- 参照テーブル

マッピング仕様にルックアップを追加すると、ルックアップの結果がターゲットカラムに返されます。単一の行または複数の行を返すように、ルックアップを設定することができます。マッピング仕様に追加したルックアップを編集して、マッピング仕様でのルックアップの使用方法を変更できます。

ルックアップを使用して、以下のタスクを実行することができます。

- 関連する値を取得する。ソースの値に基づいてルックアップから値を取得します。例えば、従業員 ID をルックアップし、従業員名を返すことができます。
- 複数の値を取得する。ルックアップから複数の行を取得します。例えば、部門コストセンターをルックアップし、部門の全従業員を返すことができます。
- 計算を行う。ルックアップから値を取得し、その値を計算に使用します。例えば、消費税率をルックアップし、税額を計算してターゲットカラムに返すことができます。

ルックアップ条件

ルックアップ条件を設定する場合、ソースデータの 1 つ以上のカラムの値をルックアップの値と比較します。

例えば、ソースデータに `employee_number` が含まれているとします。ルックアップソーステーブルには、`employee_ID`、`first_name`、および `last_name` が含まれています。以下のルックアップ条件を設定します。

```
employee_ID = employee_number
```

Analyst ツールは、各 `employee_number` に対して、ルックアップから `employee_ID`、`last_name`、および `first_name` カラムを返します。

ルックアップ条件と一致する複数の行がルックアップから返されることもあります。以下のルックアップ条件を設定します。

```
employee_ID > employee_number
```

Analyst ツールは、`employee_ID` 番号がソースの従業員番号よりも大きい行をすべて返します。

ルックアッププロパティ

ルックアップを追加または編集する際に、ルックアッププロパティを設定します。

次のルックアップのプロパティを設定します。

名前

ルックアップ名。

説明

ルックアップの説明。

複数の一致の検出時

ルックアップがルックアップ条件に一致する複数の行を検出した場合に返す行を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。

- [最初の行を返す]。ルックアップ条件に一致する最初の行を返します。
- [最後の行を返す]。ルックアップ条件に一致する最後の行を返します。

- [任意の行を返す]。ルックアップ条件に一致する任意の行を返します。
- [すべての行を返す]。ルックアップ条件に一致するすべての行を返します。
- [エラーを報告]。Analyst ツールはエラーを報告し、行を返しません。

ルックアップ条件

ルックアップ条件で以下のプロパティを設定します。

- ソースカラム名。ルックアップカラムと値を比較するソースカラムの名前です。
- 演算子。ルックアップ条件の比較演算子です。
- ルックアップカラム名。値をルックアップするルックアップカラムの名前です。

出力

以下の出力プロパティを設定します。

- ルックアップカラム名。値をルックアップするルックアップカラムの名前です。
- ターゲットカラム名。ルックアップの結果を出力するターゲットカラムの名前です。

ルックアップの追加

データオブジェクトのデータをルックアップするには、マッピング仕様にルックアップを追加します。

マッピング仕様にルックアップを追加する前に、Analyst ツールでプロジェクトにデータソースが存在することを確認します。

1. [アクション] メニューで **[編集]** > **[ルックアップ]** をクリックします。
マッピング仕様の編集ウィザードが表示されます。
2. **[新規]** アイコンをクリックします。
[新しいルックアップ] ウィザードが表示されます。
3. 名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
4. **[次へ]** をクリックします。
5. **[ルックアップソース]** パネルで、プロジェクトからルックアップを選択します。
6. 必要に応じて、検索ボックスに入力した名前またはタグでルックアップを検索します。
7. 必要に応じて、**[データプレビュー]** をクリックしてルックアップデータをプレビューします。
8. 必要に応じて、**[プロパティ]** をクリックしてルックアッププロパティを表示します。
9. **[次へ]** をクリックします。
10. ルックアップ条件とルックアッププロパティを入力します。
11. **[完了]** をクリックします。

ルックアップの編集

マッピング仕様に追加したルックアップを編集して、マッピング仕様でのルックアップの使用方法を変更します。

1. [アクション] メニューで **[編集]** > **[ルックアップ]** をクリックします。
マッピング仕様の編集ウィザードが表示されます。
2. ルックアップを選択して **[編集]** アイコンをクリックします。
ルックアップの編集ウィザードが表示されます。

3. ルックアップ条件とルックアッププロパティを入力します。
4. **【完了】** をクリックします。

マッピング仕様の結合

マッピング仕様で複数のソースを使用する場合は、ソース間の結合タイプを選択して結合基準を指定できます。Analyst ツールでは、ソース間の結合に対して推奨される結合条件が表示されます。他の結合条件を選択することもできます。

結合を作成して名前を付けたら、この結合オブジェクトを使用して別の結合オブジェクトと結合できます。結合を編集して、結合に対して指定した結合条件を変更することができます。

複数のソースをマッピング仕様に追加するには、結合を追加します。ソース間の結合条件を変更するには、結合を編集します。

以下のタイプの結合条件を追加できます。

簡易結合

単一の演算子を使用する結合条件です。

詳細結合

式の関数を使用する結合条件です。

ソース間の結合では、明細テーブルとマスタテーブルのカラムが結合されます。

以下の表に、結合のタイプを示します。

結合タイプ	説明
ノーマル	条件に基づいて、一致しないマスタソースおよび明細ソースのデータの行をすべて破棄します。
マスタ外部	明細ソースのデータのすべての行およびマスタソースの一致する行をすべて保持します。一致しないマスタソースの行は無視します。
明細外部	マスタソースのデータのすべての行および明細ソースの一致する行をすべて保持します。一致しない明細ソースの行は無視します。
完全外部	マスタソースと明細ソース両方のすべての行を保持します。

注: カラム名またはテーブル名が同じ複数のリレーショナルテーブル間の結合を作成する場合は、テーブル名とカラム名を使用して一意の名前が作成されます。以下に例を示します。TableName.ColumnName。

簡易結合の追加と編集

結合条件で単一の演算子を使用するには、簡易結合条件を追加します。ソース間の結合条件を変更するには、簡易結合を編集します。

1. **【アクション】** メニューで、**【編集】** > **【結合】** をクリックします。
マッピング仕様の編集ウィザードが表示されます。
2. **【結合】** パネルで、次のいずれかを選択します。

- 結合を追加するには、**【新規】** アイコンをクリックします。
- 結合を編集するには、結合を選択して **【編集】** アイコンをクリックします。

新しい結合または結合の編集ウィザードが表示されます。

- 名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
- 【結合タイプ】** フィールドから結合タイプを選択します。
- 【マスタ】** フィールドからマスタデータオブジェクトを選択します。
- 【明細】** フィールドから明細データオブジェクトを選択します。
- 【簡易結合】** を選択します。
- 【結合条件】** パネルで結合条件を追加するか編集するかを選択します。
 - 結合条件を追加するには、**【新規】** アイコンをクリックして、**【マスタカラム名】**、**【演算子】**、および **【詳細カラム名】** を選択します。
 - 結合条件を編集するには、**【マスタカラム名】**、**【演算子】**、および **【詳細カラム名】** を変更します。
- 必要に応じて、**【検証】** アイコンをクリックして結合条件を検証します。
- 必要に応じて、**【更新】** アイコンをクリックしてデータをプレビューします。
- 【OK】** をクリックします。

詳細結合の追加と編集

結合条件で式の関数を使用するには、詳細結合を追加します。式エディタで式を変更するには、簡易結合を編集します。

- 【アクション】** メニューで、**【編集】** > **【結合】** の順にクリックします。
【マッピング仕様の編集】 ウィザードが表示されます。
- 【結合】** パネルで、次のいずれかを選択します。
 - 結合を追加するには、**【新規】** アイコンをクリックします。
 - 結合を編集するには、結合を選択して **【編集】** アイコンをクリックします。**【新しい結合】** ウィザードまたは **【結合の編集】** ウィザードが表示されます。
- 名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
- 【結合タイプ】** フィールドから結合タイプを選択します。
- 【マスタ】** フィールドからマスタデータオブジェクトを選択します。
- 【詳細】** フィールドから詳細データオブジェクトを選択します。
- 【詳細結合】** を選択します。
- 【関数】** タブで、関数を選択し、**矢印** アイコンをクリックしてカラムを選択し、**【OK】** をクリックして式エディタに関数を追加します。
- 必要に応じて、**【マスタカラム】** タブで、カラムを選択し、**矢印** アイコンをクリックして式エディタにマスタカラムとしてそのカラムを追加します。
- 必要に応じて、**【詳細カラム】** タブで、カラムを選択し、**矢印** アイコンをクリックして式エディタに詳細カラムとしてそのカラムを追加します。
- 必要に応じて、**【検証】** アイコンをクリックして、式を検証します。
- 必要に応じて、**【データプレビュー】** パネルで、**【更新】** アイコンをクリックしてデータをプレビューします。
- 【OK】** をクリックします。

第 4 章

マッピング仕様のプロファイル

この章では、以下の項目について説明します。

- [マッピング仕様のプロファイルの概要, 34 ページ](#)
- [カラムプロファイルの実行, 34 ページ](#)
- [プロファイルのサマリ, 35 ページ](#)
- [カラムプロファイル結果の表示, 36 ページ](#)

マッピング仕様のプロファイルの概要

ソースデータの構造と品質を把握するには、マッピング仕様のソースに対してカラムプロファイルを実行します。マッピング仕様のロジックによって生成されるデータを把握するには、マッピング仕様のターゲットに対してカラムプロファイルを実行します。

マッピング仕様に対して以下のプロファイリング作業を実行できます。

- マッピング仕様のソースに対してカラムプロファイルを実行する。
- マッピング仕様のターゲットに対してカラムプロファイルを実行する。
- マッピング仕様のソースまたはターゲットのプロファイルのサマリを表示する。
- プロファイルのサマリで各カラムの値、パターン、および統計を表示する。

カラムプロファイルの実行

マッピング仕様のソースまたはターゲットに対してカラムプロファイルを実行し、データの構造と品質を分析します。

1. カラムプロファイルを実行するソースカラムまたはターゲットカラムを選択します。
 - ソースカラムを選択するには、**【ソース】** パネルでカラムを選択します。
 - ターゲットカラムを選択するには、**【トランスフォーメーションとターゲットカラム】** パネルからカラムを選択します。
2. **【プロファイルのサマリ】** タブをクリックします。
カラムプロファイル結果が表示されます。
3. 必要に応じて、**【更新】** アイコンをクリックしてカラムプロファイルをもう一度実行します。

プロファイルのサマリ

【プロファイルのサマリ】パネルで、プロファイルの実行に関するサマリを表示できます。プロファイルのサマリには、プロファイル結果について、一意の値と NULL 値の個数と割合などが記載されます。

各プロファイルのサマリプロパティをクリックするとプロパティの値をソートできます。以下の表に、プロファイルのサマリプロパティを示します。

プロパティ	説明
名前	プロファイル内のカラムの名前。
一意の値	サンプリングポリシーに基づいてサンプリングされたデータセット内のカラムの一意の値の数。
一意の値の割合	カラムの一意の値の割合。
NULL	カラムの NULL 値の数。
NULL の割合	カラムの NULL 値の割合。
推測されるデータ型	カラムの値から導出されたデータ型。Analyst ツールでは、カラムの値のデータ型から次のデータ型を導出できる。 <ul style="list-style-type: none">- String- Varchar- Decimal- Integer- NULL の場合は「-」
推測された値の割合	Analyst ツールによって推測されたデータ型に一致する値の割合。Developer ツールには表示されない。
文書化されたデータ型	プロファイルされたオブジェクト内のカラムに対して宣言されたデータ型。
最大値	カラム内の最大値。
最小値	カラム内の最小値。

カラムの値

カラムプロファイルを実行した後に、【プロファイルのサマリ】タブでカラムを選択し、カラムの値を表示することができます。カラム値には、カラムの値、およびカラムの値が出現する頻度が含まれます。

以下の表に、カラム値のプロパティを示します。

プロパティ	説明
値	プロファイルのカラムの値が 200 個表示されます。
頻度	カラムの値が出現する回数。
割合	カラムの値が出現する割合。
チャート	割合のチャート。

注: [頻度] カラムをソートするには、そのカラムを選択します。

カラムパターン

カラムプロファイルを実行した後に、[プロファイルのサマリ] タブでカラムを選択し、カラムパターンを表示することができます。カラムパターンには、カラムの値のパターン、およびパターンが出現する頻度が含まれます。

以下の表に、カラムパターンのプロパティを示します。

プロパティ	説明
パターン	プロファイルのカラムのパターン。
頻度	カラムのパターンが出現する回数（数で表される）。
割合	カラムのパターンが出現する割合。
チャート	割合のチャート。

カラム統計

カラムプロファイルを実行した後に、[プロファイルのサマリ] タブでカラムを選択し、カラム統計を表示することができます。カラム統計には、長さ、最上位と最下位の値などのカラム値に関する統計が含まれます。

以下の表に、カラム統計のタイプを示します。

統計	説明
平均	カラムの平均値。
標準偏差	カラムの標準偏差値。
最大長	カラムの最長値の長さ。
最小長	カラムの最短値の長さ。
最小値 (5)	カラムの最小値。
最大値 (5)	カラムの最大値。

カラムプロファイル結果の表示

[プロファイルのサマリ] パネルで、プロファイルされた各カラムの値、パターン、および統計を表示できます。

1. [プロファイルのサマリ] パネルで、プロファイルされたカラムを選択します。
2. [表示] アイコンをクリックします。

カラムプロファイリングの詳細ウィザードが表示されます。

3. **【値】**、**【パターン】**、または**【統計】** タブをクリックし、カラムの値、パターン、または統計を表示します。

第 5 章

マッピング仕様のロジックの共有

この章では、以下の項目について説明します。

- [マッピング仕様のロジックの共有の概要, 38 ページ](#)
- [Microsoft Excel へのマッピング仕様のエクスポート, 39 ページ](#)
- [PowerCenter へのマッピング仕様のエクスポート, 40 ページ](#)
- [マッピング仕様の仮想テーブルとしてのエクスポート, 42 ページ](#)
- [テーブル定義へのマッピング仕様のエクスポート, 43 ページ](#)
- [テーブルへのマッピング仕様の結果のロード, 44 ページ](#)
- [フラットファイルへのマッピング仕様の結果のロード, 44 ページ](#)
- [フラットファイルへのマッピング仕様の結果のロードに関するルールとガイドライン, 45 ページ](#)

マッピング仕様のロジックの共有の概要

マッピング仕様を作成して、マッピング仕様ターゲットのビジネスロジックを作成した後に、マッピング仕様のロジックまたは結果を他のアナリストや開発者と共有することができます。

マッピング仕様のロジックと結果は、次の方法で共有できます。

マッピング仕様のロジックを Microsoft Excel にエクスポートする。

マッピング仕様を共有して他のアナリストや開発者とそのマッピング仕様を記録および確認し、確認のフィードバックを反映させてマッピング仕様を変更します。

マッピング仕様のロジックを PowerCenter にエクスポートする。

PowerCenter 開発者とマッピング仕様のロジックを共有するか、マッピング仕様のロジックを含む XML ファイルを共有して、マップレットまたはマッピング内で使用します。

PowerCenter リポジトリへのマッピング仕様エクスポートの権限を持たないアナリストは、PowerCenter へのエクスポートプロセス中に、マッピング仕様のロジックを XML ファイルとしてエクスポートすることを選択できます。アナリストはこのファイルをダウンロードして、PowerCenter 開発者に提供し、マップレットまたはマッピングとして PowerCenter リポジトリにインポートできます。

マッピング仕様ロジックを仮想テーブルとしてエクスポートします。

仮想テーブル内でマッピング仕様のロジックを共有して、データに対して SQL クエリを実行します。

マッピング仕様のターゲットをテーブル定義としてエクスポートします。

マッピング仕様のターゲットをテーブル定義として共有します。Analyst ツールでは、テーブル定義を含む SQL スクリプトが生成されます。この SQL スクリプトはマッピング仕様のターゲットの構造に基づき

ます。開発者にこのスクリプトを提供して、マッピング仕様のターゲットをデータベース内のテーブルとして作成できます。

マッピング仕様の結果をテーブルにロードする。

マッピング仕様の結果を他のアナリストや開発者とリレーショナルテーブルで共有します。マッピング仕様ターゲットの構造とリレーショナルターゲットの構造が一致している必要があります。

マッピング仕様の結果をフラットファイルにロードする。

マッピング仕様の結果を他のアナリストや開発者とフラットファイルで共有します。マッピング仕様の結果をフラットファイルにロードすると、ローカルにダウンロードできるフラットファイルが生成されます。

Microsoft Excel へのマッピング仕様のエクスポート

Analyst ツールにアクセスできないビジネスチームとマッピング仕様のロジックを共有するには、マッピング仕様のロジックを Microsoft Excel にエクスポートします。

マッピング仕様のロジックを Microsoft Excel にエクスポートしたら、Microsoft Excel でファイルを開くか、または別の場所にファイル保存することができます。アナリストは、ファイルを編集し、さらに確認するためにそのファイルを共有の場所にアップロードすることができます。その後、アナリストはマッピング仕様を編集して確認コメントを追加できます。

Microsoft Excel へのマッピング仕様のエクスポート

マッピング仕様のロジックを記録、共有、および確認するには、マッピング仕様のロジックを Microsoft Excel にエクスポートします。

1. **【アクション】** メニューから、**【エクスポート】** を選択します。

エクスポートウィザードが表示されます。

2. **【Excel】** を選択します。

3. **【次へ】** をクリックします。

4. Microsoft Excel ファイルの名前を入力します。

デフォルトでは、Analyst ツールではマッピング仕様名を使用して Microsoft Excel ファイルに名前が付けられます。

5. **【完了】** をクリックします。

ブラウザのポップアップを使用して、ファイルを開いたり保存したりすることができます。

Microsoft Excel 内のマッピング仕様

マッピング仕様のロジックを Microsoft Excel にエクスポートした後、マッピング仕様オブジェクト、プロパティ、オブジェクト間のリレーションを Excel ワークブックの別々のワークシートに表示できます。

次のマッピング仕様のロジックが Microsoft Excel のワークブックに表示されます。

カラムのマッピング

マッピング仕様の **【カラムのマッピング】** ビューに表示される次の情報が含まれます。

- マッピング仕様の名前

- ソース
- トランスフォーメーションカラムとターゲットカラム

マッピング仕様オブジェクトに関連するすべてのカラムのハイパーリンクが含まれます。ハイパーリンクをクリックして、別のワークシートの関連オブジェクトにアクセスします。

プロパティ

マッピング仕様のプロパティが含まれます。

式

アグリゲータ、ルックアップ、およびルールに表示されるすべての式が含まれます。

フィルタ

フィルタに表示される式が含まれます。

結合

ソース間の次の結合情報が含まれます。

- 結合名。結合の名前です。
- 結合タイプ。結合のタイプです。
- マスタ。結合のマスタデータオブジェクトです。
- 明細。結合の明細データオブジェクトです。
- 条件。結合条件です。

PowerCenter へのマッピング仕様のエクスポート

マッピング仕様のロジックを PowerCenter 開発者と共有するには、マッピング仕様を PowerCenter にエクスポートします。マッピング仕様を PowerCenter にエクスポートすると、PowerCenter 専用の機能であるパーティション化、Web サービス、リカバリなどを利用できます。

マッピング仕様を PowerCenter にエクスポートする際に、マッピング仕様のターゲットを使用するか、またはモデルリポジトリに存在するターゲットを選択できます。

エクスポート時にマッピング仕様のターゲットを選択しなかった場合は、マッピング仕様がマプレットとして PowerCenter にエクスポートされます。PowerCenter 開発者は、このマプレットをマッピングのソースとして使用し、ターゲットを選択できます。開発者は、セッション、ワークフロー、接続の各オブジェクトを作成できます。開発者は、ワークフローを実行できます。

エクスポート時にモデルリポジトリ内のターゲットを選択した場合は、マッピング仕様はマッピングとして PowerCenter にエクスポートされます。また、このマッピングに対する再利用不可能なセッションがワークフロー内に作成されます。開発者は、ワークフローを実行する前に、マッピングのソースおよびターゲットに対して接続オブジェクトを作成する必要があります。

マッピング仕様を PowerCenter にエクスポートする際に、次のエクスポートオプションを選択できます。

PowerCenter リポジトリへのエクスポート

PowerCenter リポジトリの接続プロパティを指定し、マッピング仕様をエクスポートする PowerCenter リポジトリ内のフォルダを指定する必要があります。ソースおよびターゲットの接続情報はエクスポートされません。

XML ファイルにエクスポート

マッピング仕様を PowerCenter リポジトリにエクスポートする権限がない場合は、マッピング仕様を XML ファイルにエクスポートすることを選択できます。この XML ファイルをダウンロードして、PowerCenter 開発者と共有できます。開発者はこの XML ファイルを PowerCenter リポジトリにインポートして、マッピング仕様のロジックをマappable またはマッピングとして使用できます。

PowerCenter Designer で、フォルダ内の該当するノードにマッピング仕様オブジェクトが表示されます。例えば、マッピング仕様ターゲットは [ターゲット] ノードに表示されます。

PowerCenter 開発者は、マッピング仕様のロジックが PowerCenter にエクスポートされた後に、マッピング仕様オブジェクトに関する説明を表示できます。マッピング仕様オブジェクトに関する説明を表示すると、マッピング仕様のロジックのフローを理解できます。PowerCenter では、このような説明は、トランスフォーメーションプロパティまたはトランスフォーメーションのポートの説明に表示されます。

PowerCenter リポジトリの接続プロパティ

マッピング仕様のロジックを PowerCenter にエクスポートする場合は、PowerCenter リポジトリに接続するための接続プロパティを指定する必要があります。

PowerCenter リポジトリの接続プロパティを設定します。

ホスト名

PowerCenter ドメインゲートウェイのホスト名です。

ポート番号

PowerCenter ドメインゲートウェイのポート番号。

ユーザー名

リポジトリユーザー名。

パスワード

リポジトリユーザー名のパスワードです。

セキュリティドメイン

LDAP セキュリティドメイン名です（存在する場合）。存在しない場合は、「Native」と入力します。

リポジトリ名

PowerCenter リポジトリ名です。

コードページ

リポジトリコードページです。

PowerCenter のバージョン

PowerCenter リポジトリのバージョン。

PowerCenter へのマッピング仕様のエクスポート

マッピング仕様のロジックを PowerCenter リポジトリか、PowerCenter リポジトリの権限がない場合は XML ファイルにエクスポートします。

1. **【アクション】** メニューから、**【エクスポート】** を選択します。

エクスポートウィザードが表示されます。

2. **【PowerCenter】** を選択します。

3. **【次へ】** をクリックします。

4. PowerCenter にマッピング仕様をマップレットとしてエクスポートするかマッピングとしてエクスポートするかを選択します。
 - マッピング仕様をマップレットとしてエクスポートするには、マッピング仕様でターゲットを使用するオプションを選択します。
 - マッピング仕様をマッピングとしてエクスポートするには、**【ターゲットオブジェクト】** パネルからターゲットを選択します。
5. 必要に応じて、**【データプレビュー】** をクリックしてターゲットデータをプレビューします。
6. 必要に応じて、**【プロパティ】** をクリックしてターゲットプロパティを表示します。
7. **【次へ】** をクリックします。
8. マッピング仕様を XML ファイルにエクスポートするか PowerCenter リポジトリにエクスポートするかを選択します。
9. エクスポートのプロパティを入力します。
10. **【次へ】** をクリックします。
11. 必要に応じて、マッピング仕様に別の名前を指定します。
12. 必要に応じて、説明を入力します。
13. マッピング仕様を PowerCenter リポジトリにエクスポートする場合は、マッピング仕様をエクスポートする PowerCenter リポジトリ内のフォルダーを選択します。
14. **【完了】** をクリックします。

PowerCenter にエクスポートするプロセスでは、PowerCenter リポジトリへのエクスポート中に選択されたターゲットに基づいてマップレットまたはマッピングが作成されます。XML ファイルへのエクスポートを選択した場合は、ファイルをダウンロードして PowerCenter 開発者に提供することができます。

マッピング仕様の仮想テーブルとしてのエクスポート

マッピング仕様のロジックを仮想データベース内の仮想テーブルとしてエクスポートし、アナリストと開発者がデータに対して SQL クエリを実行する際に使用できるようにします。

仮想テーブルは、仮想データベース内のテーブルです。仮想データベースはデータの統一されたビューを定義して、エンドユーザーがデータに対してクエリを実行できるようにします。仮想データベースは、データベース構造を定義する仮想テーブルを含んだ仮想スキーマで構成されます。エンドユーザーは、物理的なデータベーステーブルと同じように、仮想テーブルに対して SQL クエリを実行できます。

マッピング仕様のロジックを仮想テーブルとしてエクスポートするときに、仮想データベースを作成するか、既存の仮想データベースを選択できます。仮想データベースには仮想テーブルが作成され、使用するパラメータが ODBC または JDBC の接続情報として表示されます。ODBC または JDBC クライアントツールを使用して仮想テーブルにアクセスできます。仮想データベースは、Administrator ツールで Data Integration Service のアプリケーションとして表示されます。仮想テーブルに対して SQL クエリを実行するには、JDBC クライアントツールを使用します。仮想データベースの接続元マシンに、Informatica JDBC ドライバをインストールする必要があります。

マッピング仕様のロジックを仮想テーブルとしてエクスポートしたら、マッピング仕様を編集し、ロジックを同じ仮想データベース内の同じ仮想テーブルにエクスポートできます。仮想データベース内の既存の仮想テーブルが、マッピング仕様の変更されたロジックで更新されます。

マッピング仕様の仮想テーブルとしてのエクスポート

マッピング仕様のロジックを、アナリストと開発者がクエリを実行できる仮想テーブルとしてエクスポートします。

1. **【アクション】** メニューから、**【エクスポート】** を選択します。
エクスポートウィザードが表示されます。
2. **【仮想テーブル】** を選択します。
3. **【次へ】** をクリックします。
4. 既存の仮想データベースを選択するか、別の仮想データベースを選択するかを選びます。
 - 既存の仮想データベースを選択するには、仮想データベースを選択します。
 - 別の仮想データベースを選択するには、**【新しい仮想データベース】** をクリックして、名前と必要に応じて説明を入力し、**【OK】** をクリックします。
5. 必要に応じて、**【プロパティ】** パネルに仮想データベースプロパティを表示します。
6. **【次へ】** をクリックします。
7. 仮想テーブルの名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
8. **【完了】** をクリックします。
9. オプションで、接続パラメータをクリップボードにコピーすることができます。
これらの接続パラメータを使用して ODBC 接続または JDBC 接続を作成し、仮想テーブルにアクセスすることができます。

テーブル定義へのマッピング仕様のエクスポート

マッピング仕様のターゲットを、開発者が使用してデータベース内にテーブルを作成できるテーブル定義としてエクスポートします。

マッピング仕様のターゲットをテーブル定義としてエクスポートする場合、テーブル定義のデータベースタイプを選択できます。Analyst ツールでは、マッピング仕様のターゲットの構造に基づくテーブル定義を含む SQL スクリプトが生成されます。

この SQL スクリプトをダウンロードして、スクリプトを実行してデータベース内にテーブルを作成できる開発者に提供することができます。開発者は、PowerCenter でこのテーブルを使用して、マッピングのテーブル定義を作成できます。開発者は、Developer ツールでこのテーブルを物理データオブジェクトとしてインポートし、マッピングで使用できます。

テーブル定義へのマッピング仕様のエクスポート

開発者が使用してデータベース内にテーブルを作成できるテーブル定義に、マッピング仕様をエクスポートします。

1. **【アクション】** メニューから、**【エクスポート】** を選択します。
【エクスポート】 ウィザードが表示されます。
2. **【テーブル定義】** を選択します。
3. **【次へ】** をクリックします。
4. データベースタイプを選択します。

5. **【完了】** をクリックします。

Analyst ツールに、SQL スクリプトファイルを開くかまたは保存するためのポップアップが表示されます。

テーブルへのマッピング仕様の結果のロード

モデルリポジトリ内に存在するターゲットのテーブルデータオブジェクトにマッピング仕様の結果をロードします。

1. **【アクション】** メニューから、**【エクスポート】** を選択します。
エクスポートウィザードが表示されます。
2. **【テーブル】** オプションを選択します。
3. **【次へ】** をクリックします。
4. 必要に応じて、ロード操作の名前を入力します。
5. **【次へ】** をクリックします。
6. 必要に応じて、**【ターゲットデータの切り詰め】** オプションを選択してターゲットのデータを切り詰めます。
7. **【ターゲットオブジェクト】** パネルで、ターゲットを選択します。
8. 必要に応じて、**【データプレビュー】** をクリックしてターゲットのデータをプレビューします。
9. 必要に応じて、**【プロパティ】** をクリックしてターゲットプロパティを表示します。
10. **【完了】** をクリックします。

フラットファイルへのマッピング仕様の結果のロード

.csv ファイル形式か.txt ファイル形式を選択して、マッピング仕様の結果をロードします。.txt を選択すると、値がタブで区切られたフラットファイルが作成されます。

1. **【アクション】** メニューから、**【エクスポート】** を選択します。
【エクスポート】 ウィザードが表示されます。
2. **【フラットファイル】** オプションを選択します。
3. **【次へ】** をクリックします。
4. 必要に応じて、名前を入力します。
5. 1 行目にカラム名をエクスポートする場合は、**【1 行目にエクスポート】** を選択します。
6. 保存するファイルの形式を選択します。
7. コードページを選択します。
8. **【完了】** をクリックします。

注: フラットファイルの生成には時間がかかる場合があります。フラットファイルのダウンロードを要求するプロンプトが表示されるまで、マッピング仕様を閉じないでください。このファイルをダウンロードするには、Microsoft のメモ帳を使用します。

フラットファイルへのマッピング仕様の結果のロードに関するルールとガイドライン

フラットファイル形式の違いが原因で、マッピング仕様の結果がフラットファイルにロードされないことがあります。

マッピング仕様の結果をフラットファイルにロードするときは、以下のルールとガイドラインに従ってください。

ロードファイル名に英語以外の文字が含まれていないことを確認します。

ロードプロセスで英語以外の文字を含んだファイル名を選択すると、生成される.txt または.csv フラットファイルのファイル名、カラム名、およびデータが正しくなくなります。ファイル名は英数字で指定してください。

マッピング仕様の結果の行数を確認します。

マッピング仕様の結果に大量の行が含まれている場合は、ロード操作の完了に時間がかかることがあります。ロード操作がハングした場合は、管理者に連絡して Analyst Service の無効化と再起動を行い、Data Integration Service からロードジョブをキャンセルします。

索引

A

Analyst ツールワークスペース
設計ワークスペース [9](#)

P

PowerCenter リポジトリの接続
PowerCenter リポジトリの接続プロパティ [41](#)

S

SQL クエリ
SQL クエリの追加 [20](#)
SQL クエリの編集 [20](#)
マッピング仕様 [20](#)
[SQL クエリ] パネル
マッピング仕様の結果 [13](#)
マッピング仕様のプロパティ [13](#)

あ

アグリゲータプロパティ
マッピング仕様アグリゲータ [24](#)

か

カラム値
マッピング仕様のプロファイル [35](#)
カラム統計
マッピング仕様のプロファイル [36](#)
[カラムのマッピング] パネル
マッピング仕様のプロパティ [10](#)
カラムパターン
マッピング仕様のプロファイル [36](#)
カラムプロファイル
マッピング仕様 [34](#)

し

使用箇所
[プロパティ] パネル [10](#)
詳細フィルタの追加と編集
マッピング仕様の設定 [29](#)
マッピング仕様フィルタ [29](#)

せ

設計ワークスペース
設計ワークスペース
参照テーブル [9](#)
設計ワークスペースオブジェクト
ルール仕様 [9](#)
マッピング仕様 [9](#)
選択されたカラムのマッピング
マッピング仕様の設定 [17](#)

そ

ソースカラムとターゲットカラムの自動マッピング
マッピング仕様の設定 [17](#)

た

ターゲットデータ型
マッピング仕様のターゲット [23](#)
ターゲットプロパティ
[プロパティ] パネル [10](#)

て

[データレビュー] パネル
マッピング仕様の結果 [12](#)
マッピング仕様のプロパティ [12](#)
テーブル
テーブルへのマッピング仕様の結果のロード [44](#)

ふ

フラットファイル
フラットファイルへのマッピング仕様の結果のロード [44](#)
[プロパティ] パネル
使用箇所 [10](#)
ターゲットプロパティ [10](#)
マッピング仕様のプロパティ [10](#)
ルールのプロパティ [10](#)
プロファイルのサマリ
マッピング仕様のプロファイル [35](#)
[プロファイルのサマリ] パネル
マッピング仕様の結果 [13](#)
マッピング仕様のプロパティ [13](#)

ま

マッピング仕様
Excel でのマッピング仕様の表示 [39](#)
SQL クエリ [20](#)

マッピング仕様 (続く)
SQL クエリの編集 [20](#)
カラムプロファイル [34](#)
マッピング仕様オブジェクト [21](#)
マッピング仕様の開発 [14](#)
マッピング仕様の作成 [16](#)
マッピング仕様の設定 [15](#)
マッピング仕様のタイプ [13](#)
マッピング仕様の編集 [16](#)
マッピング仕様の例 [9](#)
マッピング仕様の検証 [18](#)
論理データオブジェクト [8](#)
マッピング仕様オブジェクト
マッピング仕様 [21](#)
マッピング仕様ソース [22](#)
マッピング仕様のルール [26](#)
マッピング仕様アグリゲータ [24](#)
マッピング仕様ターゲット [22](#)
マッピング仕様の結合 [32](#)
マッピング仕様フィルタ [28](#)
マッピング仕様ソース
カラムの検索 [18](#)
マッピング仕様オブジェクト [22](#)
マッピング仕様ターゲット
カラムの検索 [18](#)
ターゲットの編集 [23](#)
マッピング仕様オブジェクト [22](#)
マッピング仕様の開発
マッピング仕様 [14](#)
マッピング仕様の結果
[SQL クエリ] パネル [13](#)
[データプレビュー] パネル [12](#)
[プロファイルのサマリ] パネル [13](#)
マッピング仕様の設定
SQL クエリの追加 [20](#)
カラムの自動マッピング [17](#)
カラムのリレーションの削除 [18](#)
詳細フィルタの追加と編集 [29](#)
選択されたカラムのマッピング [17](#)
ソースカラムとターゲットカラムの自動マッピング [17](#)
ソースの追加 [22](#)
ソースの編集 [22](#)
ターゲットの編集 [23](#)
テーブルへのマッピング仕様の結果のロード [44](#)
フラットファイルへのマッピング仕様の結果のロード [44](#)
マッピング仕様 [15](#)
マッピング仕様のエクスポート [38](#)
ルールの作成と編集 [26, 27](#)
ルックアップの追加 [31](#)
ルックアップの編集 [31](#)
マッピング仕様のタイプ
マッピング仕様 [13](#)
マッピング仕様のプロパティ
[SQL クエリ] パネル [13](#)
[カラムのマッピング] パネル [10](#)
[データプレビュー] パネル [12](#)
[プロパティ] パネル [10](#)
[プロファイルのサマリ] パネル [13](#)
マッピング仕様のプロファイル
カラム値 [35](#)
カラム統計 [36](#)
カラムパターン [36](#)
カラムプロファイル結果の表示 [36](#)
カラムプロファイルの実行 [34](#)
プロファイルのサマリ [35](#)
マッピング仕様のルール
再利用可能なルールのプロパティ [27](#)

マッピング仕様のルール (続く)
再利用可能なルールの編集 [28](#)
マッピング仕様オブジェクト [26](#)
ルールの作成と編集 [26, 27](#)
マッピング仕様の例
マッピング仕様 [9](#)
マッピング仕様アグリゲータ
アグリゲータプロパティ [24](#)
簡易アグリゲータの追加 [24](#)
簡易アグリゲータの編集 [24](#)
詳細アグリゲータの追加 [25](#)
詳細アグリゲータの編集 [25](#)
マッピング仕様オブジェクト [24](#)
マッピング仕様のエクスポート
Excel へのエクスポート [39](#)
Excel へのマッピング仕様のロジックのエクスポート [39](#)
PowerCenter へのエクスポート [40](#)
PowerCenter へのマッピング仕様のロジックのエクスポート [41](#)
PowerCenter リポジトリの接続プロパティ [41](#)
テーブル定義へのマッピング仕様のロジックのエクスポート [43](#)
テーブル定義へのエクスポート [43](#)
マッピング仕様の結果を仮想テーブルとしてエクスポート [42](#)
マッピング仕様のロジックを仮想テーブルとしてエクスポート [43](#)
マッピング仕様の設定 [38](#)
マッピング仕様のオブジェクト
マッピング仕様のルックアップ [29](#)
マッピング仕様のターゲット
ターゲットデータ型 [23](#)
ターゲットの編集オプション [23](#)
マッピング仕様のルックアップ
マッピング仕様のオブジェクト [29](#)
ルックアップ条件 [30](#)
ルックアッププロパティ [30](#)
マッピング仕様の結合
簡易結合の追加と編集 [32, 33](#)
マッピング仕様オブジェクト [32](#)
マッピング仕様の検証
データプレビュー時の検証エラー [19](#)
マッピング仕様 [18](#)
マッピング仕様開発時の検証エラー [19](#)
ロード操作時の検証エラー [19](#)
マッピング仕様フィルタ
簡易フィルタの追加 [28](#)
詳細フィルタの追加 [28](#)
詳細フィルタの追加と編集 [29](#)
フィルタの編集 [28](#)
マッピング仕様オブジェクト [28](#)

る

ルールのプロパティ
[プロパティ] パネル [10](#)
ルックアップ
ルックアップの追加 [31](#)
ルックアップ条件
マッピング仕様のルックアップ [30](#)
ルックアッププロパティ
マッピング仕様のルックアップ [30](#)

ろ

論理データオブジェクト
マッピング仕様 [8](#)